



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



柳まつり豊岡おどりに初参加



青々とした大豆畑に立つ小島さん



農林水産大臣賞授賞式の様子



組合設立20周年記念旅行で

自然と共生し

安全・安心な米作りを続ける元気人

コウノトリ育苗農法にいち早く取り組み、一集落一農場で法人化を実現。安全・安心な米や麦・大豆作りを続ける元気な男性を紹介します。

小島昭則さん(61歳)中谷なかたに

円山川の支流である六方川の両岸に広がる県北部最大級の穀倉地帯「六方田んぼ」。この中心に位置する中谷区でコウノトリと共生する環境に優しい農法に取り組んでいる中谷農事組合法人が、第60回全国農業コンクール全国大会(7月14日・和歌山市)で、上位10団体に贈られる名誉賞(農林水産大臣賞)を受賞しました。

どこにも負けない団結力

代表理事組合長の小島昭則さんは「33農家の強い団結力があつたからこそ今まで続けられました」と話します。

農業の後継者不足や米の値段の下落が予測される中、中谷区では集落営農の話し合いを始めました。昭和62年、県内初の区内全農家33戸による中谷営農生産組合を設立。翌年、一集落一農場方式で経営を開始しました。経営が軌道に乗ると平成10年には組合の法人化に踏み切りました。「時代の流れからもっと組合が増えると思っていました。しかし、自分の農地ややり方にとどまる農家が多くなると、これはとても困難。中谷は昔から

共同作業場があり、これを母体に団結力が高まりました。みんなの気持ちと同じ方向を向いていたんでしょ」と小島さんは話します。

一つの夢の実現へ！

現在、法人で管理している農地は55・7ヘクタール、専従職員は5人。大型農機を導入して作業を効率化しました。「農業でもうけたい」「コウノトリが雄大に空を飛ぶ姿が見たい」という二つの夢がありました。その夢を実現するため、みんな必死でした」と笑う小島さん。

コウノトリ絶滅の原因が農薬や化学肥料の使用で水田から餌となる生きものがいなくなったことと分かっていった組合は、平成5年に環境に優しい稲作りに取り組みました。牛ふん堆肥で土を作り、化学肥料は使用せず、農薬を85パーセント削減。この米を地域の名にちなみ「六方銀米」と名付けてブランド化しました。これは全て組合で直接販売しています。「農業でもうける」夢に一步步近づきました。その後、「冬期湛水」など水管理の技術を加えた「コウノトリ育



▲いつも忙しい小島さん。趣味はゴルフ・カラオケ

む農法」にも取り組んでいきます。「平成16年の台風では、機械や収穫後の米が全て水に浸かり絶望しました。でも、翌年のコウノトリ自然放鳥で勇気ももらいました。今では組合の田んぼにもコウノトリが舞い降りてくれます。私たちの頑張りを認めてくれてありがとうございます」と目を細めます。

コウノトリと共に仲間と共に

平成20年からはコウノトリ育苗農法の大豆も手掛け、今年はこの大豆と稲わらで納豆作りに挑戦し、商品化を目指します。「みんなの夢が少しずつ実現していきました。今まだ1人も欠けずに続けてこれたのは集落と組合とが一体となって進んできたから。団結力のたまものです。今後も、常に足元を見ることを忘れず、新たな夢に向かって進んでいきたいですね」と小島さんは意気込みました。

広報マンがやってきた!

幼稚園編

20

新田幼稚園

(豊岡)

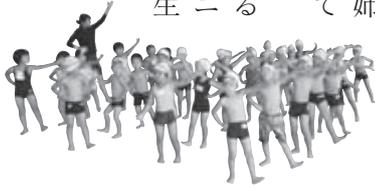
〈園児31人〉



新田幼稚園は、周りを田んぼに囲まれ、コウノトリが舞うのどかな場所にあります。7月5日、プールの時間をのぞいてみました。

プールに入る前に

今日は、とても良い天気で、絶好のプール日和。園児たちが入る前には小学2年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんが入っていました。プールに入る前は、「デイズニー体操」や先生の動きをまねる「まねっこ体操」で体をしっかり動かします。



先生から帽子のかぶり方などのチェックを受けます。髪の毛がちゃんと帽子の中に入

っていないかな?ゴーグルはちゃんと着けられたかな?また、プールに入るときには守らなければならないルールがあります。

他の人に乗らない、引っ張らない

プールサイドでは走らない・嫌がる人にわざと水を掛けない

さあ、プールに入ろう

園児たちは、胸に、肩にと順番に水を掛け、徐々に体を慣らしていき、プールに入ります。

まず、「プールさん、こんにちは

は」のあいさつで顔をつける練習をします。その後、先生

が持つフライフープを魚みたく泳いでくぐったり、手を広げたままプールを縦断したり、みんなの手をつないで輪になり、先生が作った輪っかを順番にくぐったりして遊びます。

最後の自由時間で、園児たちは、バタ足の練習をするなど好きなことをして、とても楽しそうでした。

プールの後は...

プールの後は、お弁当の時間です。いっぱい体を動かしたので、おなかですきましたね。

笑顔の輪

山野草を通じ自然の恵みを愛しむ 山野草を愛でる会(日高)

大自然に囲まれた神鍋高原。「山野草を愛でる会」は、神鍋の自然の恵みを愛しみ、自然保護の一助となる活動をするため、平成21年4月に発足しました。会員は現在31人。年度初めに、神鍋溶岩流周辺の清掃活動を行い、4～11月は、例会として月に1回、山を散策し、樹木や花を観察して写真や絵で記録しています。



▲7月例会の参加者(神鍋スコリア層前)

同会会長の田中眞雄さんは「昨年は、いろいろな地域を回りましたが、今年は初心に帰り、地元神鍋高原で、2万年の植生を観察しようと思っています」と話します。例会は、会員の他、一般参加も可能。「少しでも多くの方に参加いただき、日本古来の山野草を知り生態系を守つてほしいですね」と話すのは、同会副会長の泉鐘八郎さん。泉さんは、例会での案内役を務めます。道の駅「神鍋高原」から歩みを進め、オトギリソウ、リヨウブ、オグルマソウ、ハナミズキなど約50種類の花を見つけ、花物語を繰り広げます。「この時期は人目に付かない花が多いのでそれを見つめるのも醍醐味です」と泉さんは話します。田中さんは「神鍋はコンパクトにまとまった天然記念物だ」と大学の先生に言われました。この残された自然を後世まで残していきたい」と意気込んでいました。入会希望は道の駅「神鍋高原」まで。☎45-1333-1